

長引く景気の低迷の影響で、雇用情勢は厳しい状況が続いています。県内の完全失業率は6.6%と、全国平均の4.3%を上回っています。そのうち若年者（15歳から29歳の完全失業率は10.8%（全国値6.7%））となっており、若者の就職事情はきわめて厳しい状況です。一方、求職者1人あたりの求人状況を示す有効求人倍率は、県内が0.41倍で、全国値の0.82倍を大きく下回っています。（データは平成24年6月現在）

このデータから分かるように、雇用対策は喫緊の課題となっています。本町でもそれは同様で、厳しい雇用状況の改善を目指し、雇用対策を推進することが必要です。

「西原町雇用サポートセンター」とは

このような雇用情勢の改善を図るため、西原町では町民の雇用機会の創出拡充を図り、産業振興による地域活性化を目的に「西原町雇用サポートセンター」を平成22年11月に開設しました。

平成16年に職業安定法が改正され、市町村などの地方公共団体が施策として職業紹介を行うことが可能になり、それに伴って西原町では同センターを設置しました。同センターは無料職業紹介所と呼ばれるもので、事業者等と求職者の間に入り、就職のあっせん等を行うことができ、事業者、求職者ともに無料でセンターを利用することができます。

雇用サポートセンターを利用するには

同センターでは、町内の事業所が必要としている人材を登録することで、求人の募集がされます。登録時には正社員・パートなどの雇用形態や職種、必要な資格などを指定します。

就労を希望する方も同様に、求職者としての登録が必要です。希望の職種や雇用形態、持っている資格などが登録されると、事業所の求人と能力や職種にあった求職者をマッチングします。

これらの登録は、同センターが設置されている建設部産業課で直接手続きをします。町ホームページ内の同センターのページで仮登録すると、手続きがスムーズです。

採用までの流れ

求職者と事業所とのマッチングがあったときは、同センターが仲介して事業所、求職者間の面接あっせん含むまで段取りします。面接などを経て採用の可否が決定したら、雇用契約が締結されます。

同センターのホームページからは、求職者の登録状況や事業者の募集状況を閲覧することができます。登録している事業所や求職者は、同センターでこれらの詳細な情報を確認することができます。

ただし、登録したら就職先が必ず見つかるわけではありません。求職者と事業所の要望が合わないため、紹介がされない場合もあります。より早く就職先を見つけるためには、ハローワークや情報誌などを平行して活用することがポイントです。

雇用サポートセンターを活用しました

西原町は「文教のまち」といわれますが、小那覇・東崎の工業専用地域を中心に多く

の産業が集積しており「工業のまち」ともいわれています。企業が多い分、西原町には雇用機会が創出される可能性がありまます。その受け皿となっているのが同センターです。

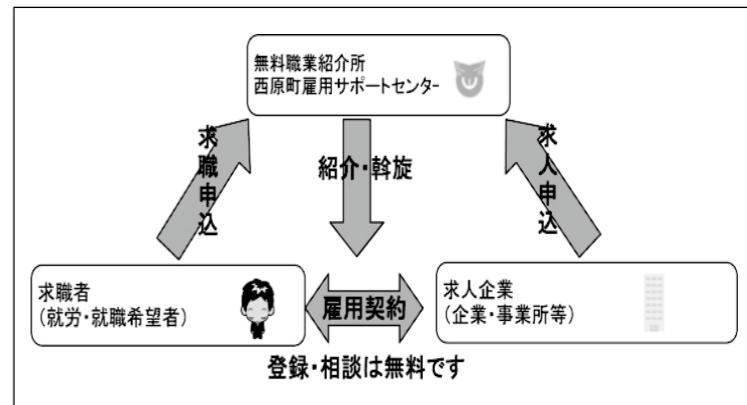
同センターを活用して実際に従業員を採用した企業の一つが、小那覇にある（株）七和です。同社はこれまで、ハローワークで求人を募集するなどして、人材を採用してきました。また学生のインターンシップを受け入るなど、人材の発掘を積極的に行っている企業です。公共工事の受注が多い同社は「現場で働く地元の人を求めていることから同センターを通じて求人を募集したそうです。」「地元で人を探せるのは大きなメリット。求職者も近場で働きたいというニーズがあるので、町内で就職をあっせんできるのはいいい。」とメリットをあげました。

「企業としては長く働き続けてもらいたい。お互いの細かいニーズが合致すると、雇用が長続きすると思う。」と感想を述べました。

雇用サポートセンターのこれから

センターが開設してもうすぐ2年になります。これまでにセンターに求人を登録した事業所は20社、現在登録している求職者49名にのぼっています。その間、センターの仲介を経て5名の雇用が創出されました。新しい就職先が見つかった求職者の中には、これまでの経歴を活かして活躍している方や、会社が研修に派遣し、資格取得のための勉強している方もいます。採用した事業所にとっては、同じ町内で人を雇うメ

リットがある、という声が聞かれています。同センターでは、就職困難者や低所得者等の就労支援のため、これからも新たな雇用の創出と失業者対策を進めていきます。そして、本町の産業振興と経済の発展を目指します。「西原町雇用サポートセンター」を、活用してみませんか。



「西原町雇用サポートセンター」の仕組み

「西原町雇用サポートセンター」について、詳しくはお問い合わせください。また、町ホームページでも紹介していますので、こちらもご覧ください。

【お問い合わせ】建設部産業課
☎945・4540

基地のない西原町も、オスプレイにNO！ 「米軍基地の所在しない市町村連絡協議会」

米軍基地が所在しない西原町と南風原町、豊見城市、与那原町、中城村の5市町村で構成する「米軍基地の所在しない市町村連絡協議会」（会長、城間俊安南風原町長）が、7月23日に記者会見を行い「普天間飛行場へのオスプレイ配備計画に反対する声明」を、5市町村長の連名で発表しました。

声明では、米軍が普天間基地に配備を計画しているオスプレイに対し「基地の機能強化及び固定化につながるオスプレイの配備計画を撤回すること」「世界一危険な普天間飛行場を固定化せず、即時閉鎖・早期返還すること」「沖縄県の基地負担軽減を着実に実施すること」などを記し、オスプレイ配備に対して強く反対の姿勢を示しました。

はからずもこの日は、普天間飛行場に配備されるオスプレイが山口県の岩国基地に搬入されたこともあり、会見で上間明西原町長は「今回のオスプレイの配備については、関係機関が広く協力して取り組まないといけないと考えている。沖縄県民全体がオスプレイ配備に反対しているのは明らか。岩国での強行搬入、許せるものではない。」と厳しい口調で語りました。



また会見を前に行われた同協議会の会議では、試作段階から合わせて8回の事故を起こした同機の安全性の問題や、沖縄配備に至る状況などが報告されました。議長を務めた城間南風原町長が「普天間基地へのオスプレイ配備は県民の命を危険にさらすもので、到底容認することはできない。」と語り「米軍基地が所在しない市町村としても、オスプレイ配備の反対の声を上げ、県民大会を盛り上げていくことが必要。」と提起しました。

※8月5日に開催される予定だった「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」は、台風11号接近のため9月9日11時に延期して開催することになりました。（記事20ページ）

「100人のワークショップin西原町」で、 多くの出会い、触れあい

西原町で活躍する社会人サークルや各種団体と大学生サークルが集まり、情報交換などを通じて今後のまちづくりや各団体の活動の充実・発展を図るため「100人のワークショップin西原町（同実行委員会主催）」が、7月22日に町商工会ホールで開催されました。イベントには10の大学生サークルと町内の9団体が参加しました。

イベントでは、各団体が自分たちの活動をアピール。大学生と社会人が情報交換や意見交換をして交流を深め、西原町を目指す町民が主体の「協働のまちづくり」のきっかけになりました。

参加した学生サークルのみなさん

- 琉球風車**
【伝統エイサーの団体で、イベントや修学旅行生に演舞を披露】
- カタヤビラ**
【大学・社会人が高校生と「語る場」を提供し、夢や悩みを語る】
- 満風**
【創作エイサー団体。学園祭の出演や自主公演を開催】
- Shiny**
【県内の女子学生向けのフリーペーパーを発行】
- Act!!**
【学生向けのフリーペーパー発行やイベントの企画運営】
- 語りつぎ部（平和劇）**
【沖縄戦の体験を語りつぎ、次世代へ平和をつなぐ】
- ONELOVE**
【フィリピンへの支援や世界を考える参加型の出前授業を実施】
- CORE:**
【東日本大震災の被災者と文通するなど、被災地支援活動】
- DREAM KIDS PROJECT**
【子どもたちの夢・希望を応援。福島県の保育園に野菜を提供】
- NIC**
【絵本の読み聞かせなどを通して、英語や異文化を学ぶ場を提供】



各種団体・社会人サークルのみなさん

- 西原町役場
- 西原町まちづくり研究会
- 西原町PTA連合会
- 西原町公民館サークル連絡協議会
- 西原町商工会青年部
- 西原町子ども会育成連絡協議会
- 読みあいネットワーク喜楽星7
- 西原町青年協議会
- お父Ring沖縄
- コミュニティおきなわデザイン塾

「100人のワークショップ」in 西原町の参加者の感想を町ホームページに掲載しています。また、イベントの動画を、西原町公式動画「さわぶじチャンネル」で公開しており、各団体・サークルの紹介や交流のようすを見ることができます。合わせてご覧ください。